

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年11月11日 NO.57

花ちゃん 「種（たね）を飛（と）ばすために、『くるくる』もあったし、『スーイ・スーイ』もあったし、もうないのかな。」

オー君 「そうだなあ……。そうだ！『ふわふわ』もあるぞ。」

花ちゃん 「あ！わかった。風にふかれて『ふわふわ』と飛んでいくのね。タンポポの綿毛（わたげ）ね。オー君も、フーッとふいたことあるでしょ。」



オー君 「うん。もちろんあるよ。まるで落下傘（らっかさん）のようだった。おいら、おもしろいから、何度（なんど）も何度もやったよ。」

モンタ博士「そうだね。『タンポポの綿毛飛ばし』をやったことのない人なんて、いないと思うけど……。」

花ちゃん 「と思うけど……。どうなんですか。」

モンタ博士「大切なのは、その次さ。」

オー君 「その次……。どういうことですか。」

モンタ博士「大切なことは、それがどうして、そうなるのかをじっくりと考えたり、よく観察（かんさつ）みるということさ。つまりね……。」

花ちゃん 「つまり……。」

モンタ博士「つまり、その落下傘みたいになるのは、どうしてだろうね。」

オー君 「うーん。そうか・・・。」

花ちゃん 「ふーむ。なるほど・・・。」

モンタ博士 「下についている種があるだろう。あれは、おもりのやくめをするんだね。上には、とっても細かい毛がたくさんついているね。たくさんの空気をためこむんだね。それで、『ふわふわ』と飛ぶんだね。」

花ちゃん 「ほかにも同じように綿毛がついていて、『ふわふわ』飛ぶものもあるわ。」

オー君 「そうだ。アザミの仲間（なかま）も『ふわふわ』飛ぶぞ。それから、まだまだあるぞ。」

花ちゃん 「ススキなんかも、『ふわふわ』と飛んでいきますね。」

モンタ博士 「まだまだいっぱいあるよ。ノゲシやガガイモ、キジョラン、センニンソウやその他、いっぱいあるよ。」

オー君 「なるほど。みんな風となかよしで、友達なんだ。」

モンタ博士 「そうだね。それでは、風となかよしの植物の種のオンパレードだ。さあ、下の絵をみてごらん。いろいろあるだろう。『ふわふわ』『くるくる』がいっぱいだね。」

花ちゃん 「なるほど。植物だって、仲間や子孫（しそん）をふやすために、いろいろな工夫をしているということですね。」

